

第50号

関宿城
博物館

友の会

会報誌

令和3年(2021年)4月30日刊行

< 発行 >
千葉県立関宿城博物館
友の会・広報部

「友の会」が創立10周年を迎えます。

千葉県立関宿城博物館友の会は、平成23年(2011年)7月3日に設立総会が開催され、会員74名で発足いたしました。8月21日の臨時総会時には84名となり、翌年平成24年の定期総会時には94名となって、100名越えが期待されましたが、以後は横這いから逡減傾向となり、令和3年4月現在の会員72名様の内訳属性は以下のとおりです。

友の会では今後、会員の増加につながるよう、会員の皆様のご要望やニーズを的確に把握して反映できるような取り組みを進めて参ります。引き続き、ご理解、ご支援をいただきますようお願い申し上げます。

会員の種別

■ 一般会員 ■ 家族会員 ■ 賛助会員

賛助6人

家族9人



一般57人

会員の男女別内訳

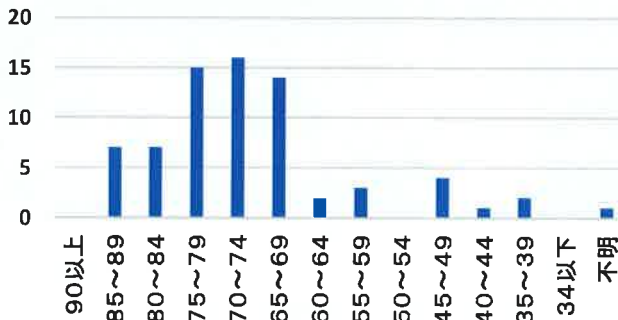
女性6人



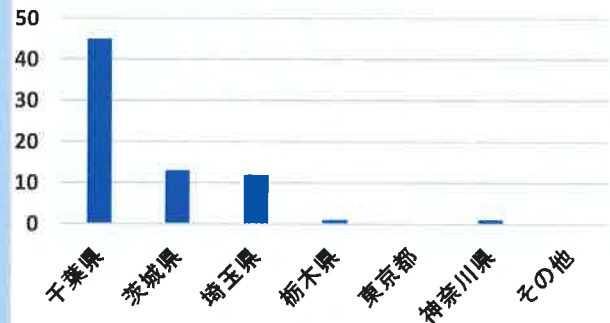
男性66人

■ 男性 ■ 女性

年齢分布



会員 都県別内訳



平成24年度 友の会定期総会 特別講演

当会 久世康生 顧問 「久世家菩提寺の本妙寺と明暦の大火について」

当会の旧関宿藩主久世家当主の久世康生顧問には、平成24年度定期総会の折りに特別講演をしていただきました。江戸時代の大火「明暦の大火」(振袖火事)の火元は通説では当時本郷丸山にあった、久世家菩提寺の本妙寺であるとされていますが、本当は隣の幕府老中の阿倍忠秋の屋敷から出火したもので、老中屋敷が火元では幕府の権威が失墜することを恐れて、本妙寺に火元の責任を負ってもらったというものです。その証拠に本妙寺は廃寺・移転などのおとがめを一切受けず、以後、檀家でもない阿倍家から毎年米15俵が(明治期は金15円が関東大震災まで)回向料、供養料として届けられたそうです。



久世康生顧問 講演

歴史探訪をふりかえって 「第一回 関宿藩ゆかりの地に行く」

関宿城博物館友の会では、平成24年度から歴史探訪を実施して参りました。会員の中には参加希望がおりでも、必ずしも多くの会員の皆様に、ご参加いただけておりません。

そこで主な見学先について、ふりかえってポイントなどをご紹介しますと存じます。

第一回 平成24年7月25日 開催 テーマ「関宿藩ゆかりの地に行く」

主な見学先 清澄庭園（関宿藩下屋敷跡地）、江戸城内富士見櫓（関宿城天守のモデルの御三階櫓）

本妙寺（旧関宿藩主久世家菩提寺。現在の所在地は豊島区巢鴨、江戸時代は本郷丸山に立地）

清澄庭園

清澄庭園は、江戸時代中期の享保年間から関宿藩久世家下屋敷が立地していました。それ以前は紀伊國屋文左衛門の屋敷がありました。明治になり、三菱財閥創始者岩崎弥太郎がこの地を入手して、二代、三代と庭園整備が継続され、紆余曲折を経て現在のような全国の名石が配置された「回遊式築山林泉庭園」となりました。現在は都立公園になっています。



清澄庭園の池の「磯渡り」の前で。

本妙寺

本妙寺は現在は豊島区巢鴨に立地していて、正式名称は徳栄山総持院本妙寺といい、法華宗の寺院です。1面で紹介のとおり久世家歴代藩主のお墓があります。当日は久世顧問の令夫人とご子息がおこしになりました。なお「遠山の金さん」こと遠山金四郎景元のお墓もこの墓地にあります。



本妙寺の玄関前で久世顧問令夫人・ご子息と。

お知らせ：令和2年12月19日に予定していた「ダイヤ風作り」は、コロナ禍を勘案して中止としました。

千葉県立関宿城博物館 友の会 賛助会員のご紹介

＜当友の会は次の会員の方々から賛助のご支援をいただいております＞
有限会社丸美葬祭様 遠藤産業株式会社様 大久保税理士事務所様
関宿そば打ち愛好会様 森戸郵便局様 宝樹山実相寺様

【編集後記】 新型コロナウイルス感染症の猛威が続いています。とうとう、当博物館のある野田市も「まん延防止等重点措置」の適用地区に追加されました。ワクチン接種は遅々としてなかなか進捗していません。マスク着用、手指の消毒、手洗い・うがい、移動、ソーシャルディスタンス確保など、皆様、十分にご留意ください。

本号の発行が大幅に遅延いたしましたお詫び申し上げます。今まで会報誌発行を担当してきた広報担当の長岡様が退任し、次号からは会員の坂巻様が担当いたします。（事業部 市川）

連絡・問合せ先

千葉県立関宿城博物館友の会

〒270-0201 野田市関宿三軒家143-4
TEL 04-7196-1400 FAX 04-7196-3737